

青森明の星短期大学

2023 年度 自己点検・評価報告書

No.	点検部署	頁
1	保育専攻	P. 2
2	コミュニティ福祉専攻	P. 3
3	教学部	P. 4
4	事業部	P. 5
5	学生部	P. 6
6	入試広報部・入試広報課	P. 7
7	キャリア支援部	P. 8
8	総務課	P. 9
9	教学就職課	P. 10

部署名	保育専攻
1. 重点事項	
①項目	<p>【専攻の重点課題】</p> <p>1. 教学マネジメント・学びの充実に関する重点事項</p> <p>2. 研究活動の推進とその成果還元・情報発信</p> <p>3. 附属幼稚園などの関係施設と連携した教育の推進</p> <p>4. 本学 60 周年の周知を含めた専攻の教育内容の魅力づくり・情報発信</p>
②目標	<p>1 ①子どもと造形 I・II 教員を確保する。</p> <p>②小学校英語指導者資格を見直し、変更する。</p> <p>2 ①全国保育士養成協議会全国大会の運営の役目を果たす。</p> <p>②全保協の共同研究（助成）研究委員に櫻本先生（令和 5～6 年度） 本学を代表して携わるため、専攻で研究等の協力を推進する。</p> <p>3 新体制となった附属幼稚園にご意見や要望を伺いながら、実習、その他の連携を共に推進していく関係を構築する。</p> <p>4 ①現場（保育園・認定こども園・幼稚園等）との意見交換会を実施する。</p> <p>②地域における「保育の魅力発信！」活動の計画の通り実施する。</p>
③取り組み	<p>1 ①造形の非常勤の公募を出しつつ、専攻の人脈でも同時に探す。 場合によっては 9 月から専任での公募も検討する。</p> <p>②専攻内で資格と科目を精査し、広報媒体も早急に修正する。</p> <p>2 ①4 月の総会に実行委員（2 名）が参加し、9 月の大会の準備を進める。</p> <p>②東北ブロック共同研究の協力、成果発表、専攻での情報共有を行う。</p> <p>3 附属幼稚園への挨拶、聴き取り、協力を推進する。</p> <p>4 ①意見交換会を実施し、ステークホルダーの意見を教育に活かす。</p> <p>②多様な地域との活動を通して教育の充実を図り、60 周年を PR する。</p>
2. 自己点検・評価（取り組み状況/目標の達成度）	
<p>1 ①公募では多々困難であったが、最終的に紹介を通じて確保することができた。</p> <p>②小学校英語指導者資格については、2026 年度で廃止、幼保英検にシフトチェンジする方針で教授会に諮り、学校案内、ホームページ、学則及び便覧等の記載について整理した。</p> <p>2 ①②全保協の全国大会の運営及び共同研究（櫻本先生）についての役割を果たすことができた。一方で、専攻での全保協への関心を高め、参加率を上げていくことが課題である。</p> <p>3 附属幼稚園にはレジョエミリアの巡回展、あそびのひろば、意見交換会など情報共有とお誘いをしたが、参加には至らなかった。園児数の激減により実習も困難な状況である。</p> <p>4 ①施設も含め意見交換会を実施し、相互に、また現場同士で有益な意見交換ができ、今後の養成に関する課題を共有することができた。毎年実施し、現場との交流・連携の場としたい。</p> <p>②専攻では今年度 10 件に及ぶ様々な地域との保育イベント活動を通し（全てのチラシに 60 周年ロゴを入れ）、学生の地域での活動の場を広げ、実践と学びを深める環境の充実を図った。</p>	
3. 次年度の取り組み予定	
<ul style="list-style-type: none"> ・「保育の魅力発信！プロジェクト」を高大連携に絡め、高校生も一緒に活動に参加する方向で実現を目指す。在学生にとっても、更に多くの学生たちが参加する土壌を培っていく。 ・実習先との意見交換会を更にブラッシュアップし、現場との連携・協同を推進していく。 	

部署名	コミュニティ福祉専攻
1. 重点事項	
① 項目	<p>【介護福祉コース】 質の高い介護福祉士の養成</p> <p>【キャリアビジネスコース】 簿記教育の充実</p>
② 目標	<p>【介護福祉コース】 実践的介護技術習熟と介護福祉士試験の合格</p> <p>【キャリアビジネスコース】 会計サポートのウェブ学習システムを最大限に活用した日商簿記検定 3 級全員合格と 2 級挑戦者の合格</p>
③ 取り組み	<p>【介護福祉コース】 より実践的な通常授業に加え、模擬試験、受験対策授業、個別補講にわたる万全の体制での指導</p> <p>【キャリアビジネスコース】 1 年前期からウェブ授業を主体とした反転学習の実施、進度の早い学生および遅延学生への適切な指導及び 2 級学習者への指導体制の強化</p>
2. 自己点検・評価（取り組み状況/目標の達成度）	
<p>【介護福祉コース】</p> <p>◇実践的介護技術習得 最新の介護技術を習得するため、外部講師による授業及び国家試験レベルの介護技術を総復習した。</p> <p>◇介護福祉士試験の合格 2 年生対象の受験対策授業は前期に行い、必要時には個別補講や面談を実施した。模擬試験結果を基に授業内容の検討を行い、1 年生へは国家試験合格を意識した授業を展開した。</p> <p>【キャリアビジネスコース】</p> <p>◇日商簿記検定 3 級全員合格と 2 級挑戦者の合格 3 級合格者が 9 名と過去最高となったが、2 級合格者がゼロであった。2 級の指導体制については、税理士に数回授業時に来ていただき、質問に答える形をとったところ学生の評価はとて高く一定の効果はあったが、合格者が出なかったのは、やはり指導体制の脆弱さが原因と考える。</p>	
3. 次年度の取り組み予定	
<p>【介護福祉コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護福祉士国家試験合格レベルの介護技術取得、受験対策授業、模擬試験の継続実施 気になる学生への個別指導及び面談の実施。 <p>【キャリアビジネスコース】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2 級指導者確保による 2 級合格者複数排出 1 年次 2 級合格で就職を有利に、高校生にアピール、入学者増 	

部署名	教学部
1. 重点事項	
①項目	<p>①2023 年度教学マネジメント実施計画の作成と運営管理</p> <p>②IR による情報の収集・活用</p> <p>③初年次教育の充実に向けた共通基礎科目の見直し</p>
②目標	<p>①DP 達成に向け、体系化した実施計画を示し組織的にマネジメントサイクルを回す。</p> <p>②教育成果把握に活用するため、必要な情報を収集・整理しデータベース化する。</p> <p>③初年次教育に必要と考えられる学習方法等の習得の充実を図る。</p>
③取り組み	<p>「何を学び、身に付けることができたのか」という点に着目し、教育課程の編成において、学位を与える課程全体としてのカリキュラム全体の構成や、学修者の知的習熟過程等を考慮し、単に個々の教員が教えた内容ではなく、学修者自らが学んで身に付けたことを社会に対し説明し納得が得られる体系的な内容となるよう、「学修者目線」で教育支援に取り組む。</p>
2. 自己点検・評価（取り組み状況/目標の達成度）	
<p>①2023 年度教学マネジメント実施計画の作成と運営管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可視化された「学修成果」に基づくカリキュラムマネジメント（PDCA）の展開が不十分である。学生の面談にどのように活用するか改善が必要である。 <p>②IR による情報の収集・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テスト結果の解説会により、学生は各自のコンピテンシー能力を認識しているが、結果を活用していく点においては、授業やチューターとの関りの中で、より一層の工夫がなされる必要がある。また、未受験の学生への対応が求められる。 <p>③初年次教育の充実に向けた共通基礎科目の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容の見直しを図り、授業を実施した。 	
3. 次年度の取り組み予定	
<p>①教育マネジメントの運営管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員全体で教学マネジメントの必要性を理解し、1 人ひとりが教育の質の向上を目指して取り組むことが出来るようにマネジメントサイクルを展開していく。 ・学生自らの成長を実感できる教学マネジメントシステムを実現する。 ・「学生振り返りシステム」活用し、学修成果のフィードバックをできるようにする。 <p>②IR による情報の収集・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き教育成果把握に活用するため、必要な情報を収集・整理しデータベース化を図る。 <p>③CAP 制について、上限 50 単位と定めた根拠の見直し・検討をする。</p>	

部署名	事業部
1. 重点事項	
①項目	①FD・SD 研修 ②地域連携と生涯学習センターの運営 ③高大連携と大学間連携
②目標	①教職員に有用な研修内容等検討を行う ②行政や団体等との連携事業や公開講座等を実施し地域との連携を深める ③学内資源の活用を通して高校、他大学との連携を深めるとともに情報共有を通して、共通の課題の解決に努める
③取り組み	①全教職員へアンケートを行い、研修の希望を調査し検討する ②各事業において事業を通して情報共有し実施する ③高大連携、大学間連携を通して共通の課題解決に努める
2. 自己点検・評価（取り組み状況/目標の達成度）	
①事業部内で検討し、本年はいじめ対応に関する研修と学内 FD 研修を行った。 ②浪打銀座商店会でのアンケート、ねぶた祭参加、ヤングケアラーの研修、中泊町民生児童委員の学内見学等情報共有しながら事業の円滑な実施に向けて取り組んだ。 ③本学で提供可能な事業を周知し、大湊高校から研修依頼があった。(60 周年事業と重なり中止) また、高校から「総合的な探究の時間 発表会」への参加や審査委員としての依頼もあった。	
3. 次年度の取り組み予定	
①次年度に向けて外部資金・科研費獲得に関する研修を事業部内で検討し実施に向けて計画する。 ②情報共有しながら、引き続き円滑な事業の実施に取り組む。 ③「総合的な探究の時間」の関係以外でも高大連携事業ができるよう検討していく。	

部署名	学生部
1. 重点事項	
①項目	①課外活動の活性化によるキャンパスライフの充実 ②学生アメニティの向上を目指した各種支援
②目標	①学友会による自治活動の運営と支援。 ②魅力的な学内環境の整備を進める。
③取り組み	①コロナ禍以前の行事やサークル活動の活性化を目指して、学友会活動の運営を支援していく。また外部依頼されたボランティア活動の紹介などを通して、学生の学修環境の整備も並行して支援する。 ②各種アンケート調査等による学生生活の実態を把握することで、学生の健康管理や安全教育を進める。また、奨学制度の説明や各種相談対応等、学内の環境整備について各種支援を実施する。
2. 自己点検・評価（取り組み状況/目標の達成度）	
<p>①学校生活に対する満足度が高まるイベントの実施に向けて、コロナ前の平時の賑わいを取り戻すことを目標として学友会活動を支援した。結果、体育祭や学生祭における学生の出席率は90%を超え、とりわけ学生祭は300名（一般含む）を超える参加者で盛況に終えることができた。各イベントにおける学生たちの高い参加率から鑑みて、キャンパスライフの充実度を向上させる当初の目標は達成できたと捉えている。</p> <p>②前期および後期にそれぞれ Google フォームで学生生活アンケートの実施、ならびに目安箱を事務室に設置することで、それぞれの結果を学内で情報共有と改善策の検討を重ねてきた。また、保健室の環境整備および備品管理を徹底することで学生の健康管理を行い、避難訓練や消火訓練など各種行事に即した安全教育を実施した。その他、奨学制度や各種相談対応に関して、学生部から教職員の間で情報共有を図り、学生支援を実施することができた。</p>	
3. 次年度の取り組み予定	
<p>①新体制となった学友会は今年度の反省を踏まえ、学生生活の充実をより一層推進することで今年以上の盛り上がりを実感できる活動展開を目指している。各セクションに責任者を配置することで内部連携の充実化を図り、学友会を中心にイベントの準備を進めていく。また、ボランティアなどを介して地域との交流が促進される活動となるように、引き続き学生支援に尽力したい。</p> <p>②目安箱への投書が年々減少している。学生生活アンケートとは別で、随時、本学への意見を募ることができるツールとして改めて周知し直し、学生からのニーズを常に把握して対応につなげていきたい。上記の①各種イベントによるキャンパスライフの充実、および、魅力的な学内環境の整備を進めることで、本学の魅力を学内から学外へ発信していきたい。</p>	

部署名	入試広報部
1.重点事項	
①項目	①高校訪問と OC を通じた本学への理解促進 ②創立 60 周年をコンテンツとした広報活動 ③各教員の「学びのメッセージ」掲載
②目標	定員充足率の増加
③取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・募集：高校訪問の訪問校を増やし、高校との円滑なコミュニケーションを行うとともに、進路説明会等で高校生・保護者に引き続き丁寧な説明を行い、OC 参加者及び受験者を増やす。 ・広報：60 周年を前面に出した広報を行い、各専攻・コースの取り組み等を様々な媒体で発信し、本学への理解促進につなげる。 ・入試：アドミッション・ポリシーを理解したうえでの受験につながるよう、引き続ききめ細やかな広報活動を展開し、アドミッション・ポリシーに沿った入試を実施する。
2. 自己点検・評価（取り組み状況/目標の達成度）	
<p>募集：</p> <p>OC、高校訪問共に計画通り行われたが、OC 参加者、受験者共に減となった。明の星高校に対する説明会の実施は昨年度よりも回数が増えた。</p> <p>広報：</p> <p>テレビ CM や web 広告、SNS などさまざまなメディアを活用して広報を行った。昨年度に比べ、各専攻・コースの取り組みを発信できる機会は増えたが、全体的に見て偏りのある発信となった。</p> <p>入試：</p> <p>アドミッション・ポリシーを理解したうえでの受験につながるよう OC や進路説明会等で説明を行った。各入試は滞りなく、適正に行われた。</p>	
3. 次年度の取り組み予定	
<ul style="list-style-type: none"> ・OC 参加者増のため、高校訪問の実施に加えて、学内他部署と連携し高校生と直接つながることができる機会（高大連携など）を増やす。 ・受験希望者を増やすため、OC の体験授業内容やプログラムを工夫したり、より学生と高校生が関わる場面を増やしたりする。 ・地域に向けて本学の認知度を上げるため、各専攻・コースや教員との情報共有を行い、学生や各専攻・コースの取り組みについて、さまざまなメディアを活用した広報を行っていく。 ・学生広報グループの活動内容について検討し、参加学生がより活発に活動できるようにする。 ・引き続き、アドミッション・ポリシーに基づいた選抜が行われるよう、周知や確認を行う。 ・入試問題作成委員会と連携し、各入試が滞りなく公平かつ適正に行われるようにする。 	

部署名	キャリア支援部
1. 重点事項	
① 項目	1 適切なキャリア支援 2 適切な情報提供 3 進路指導室の整備と充実
② 目標	1 学生の適切な進路選択のためのタイムリーな支援 2 進路に関する資料提供と効果的な情報提供 3 各専攻との連携 4 卒業生に対するフォローアップ 5 利用しやすい進路指導室の整備
③ 取り組み	1 キャリアハンドブックを活用した適切なキャリア支援 2 各専攻と連携した学生に対する面談 3 年間を通じた相談対応 4 求人票・情報発信の工夫→電子システムの配信 5 関係機関と連携した情報発信 6 新卒者激励会の実施 7 進路指導室の整備
2. 自己点検・評価（取り組み状況/目標の達成度）	
<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアサポートの授業等を通して適切なキャリア支援に努めた。 ・各専攻と連携した面談について、年間を通して昼休みの時間帯に進路相談を実施し学生は積極的に活用した。また、学生のニーズに応じて時間等を設定し相談業務を実施した。 ただし、専攻によっては十分に対応することが難しかった。 ・求人についての情報提供に努めた。 ・青森中央短期大学と連携し、企業研究会・県内保育施設説明会を実施した。介護・ビジネスに関する発信が不十分であった。 ・県内新卒者激励会を4年ぶりに実施することができた。 ・進路指導室の整備に取り組んだ。 	
3. 次年度の取り組み予定	
<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアサポートの授業内容について検討し、より学生にとって学びの深い内容にする。 ・相談業務については積極的に実施する。 ・学生が求人情報をしっかりと確認できているのか検証し適切に情報提供する。 ・各専攻と積極的に情報共有し、より学生のニーズに応えられるようにする。 ・多様な関係機関と連携し、より学生に有益な取り組みを実践する。 ・県内新卒者激励会、関東激励会を実施する。 ・より学生の使い勝手のよい進路指導室となるよう整備する。 	

部署名	総務課
1. 重点事項	
① 項目	<ul style="list-style-type: none"> ・管理業務 ・施設管理 ・会計業務
② 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・出勤簿管理マニュアルの整備 ・老朽化した部分の修理と、清掃、花壇整備等の学内の美化 ・正確な会計処理
③ 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・出勤管理等での疑問点について解決し、より使用しやすいものにする。 ・配管の水漏れなど多数あるため、その都度対応し修理する。 学生玄関先などの花壇を整備する。 ・会計伝票等はWチェックを欠かさず行い、毎月の元帳のチェックも徹底する。 ・備品管理（備品シールの貼付の確認） ・固定資産廃棄の確認と棚卸し、管理確認
2. 自己点検・評価（取り組み状況/目標の達成度）	
<ul style="list-style-type: none"> ・出勤簿の時間管理の疑問点も少なくなり、マニュアルも整備されてきている。 ・雨漏りや配管の水漏れは、老朽化のため修繕してもすぐ別の場所が水漏れするという状態になっているため、対応に追われているような状態になってきている。 学生玄関先花壇の総務課での整備は、業者依頼よりも経費削減になったうえに長期間開花していたので良かった。 ・会計業務に関しては、毎月の元帳のチェックなど徹底したことにより正確な処理ができた。 ・第三者評価においての固定資産の管理についてのご指摘を受け、固定資産台帳と備品を照らし合わせ確認を行った。備品シールが貼られていないものについては、台帳に沿って管理番号シールを貼付した。 	
3. 次年度の取り組み予定	
<ul style="list-style-type: none"> ・修繕に関しては、不備の発生に応じて安全面を重視し対応したい。 ・学生、教職員が安心して生活できるよう、校内の衛生・美化に努める。 ・固定資産の確認等を引き続き行い、登録・処分申請等を適切に行う。 	

部署名	教学就職課
1. 重点事項	
①項目	<ul style="list-style-type: none"> 1. 授業対応 2. 要支援学生への対応 3. 就職活動のきめ細やかなサポートの実施
②目標	<ul style="list-style-type: none"> 1. 両キャンパスにおいて授業から試験までの学事暦を遂行する。 2. 支援の必要な学生への適切な対応や支援方法を模索する。 3. 就職率の向上。
③取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 1. 青森・下北両キャンパスにおいて同一内容の教育活動が行えるよう、各部署と連携を図りながら、特に下北キャンパスとの情報共有に努める。 2. 障がい学生支援に関する基本方針が定められたことから、障がいのある学生への基本的な知識を得るために、「障がい学生支援実務者育成研修会（基礎プログラム）」に参加する。 3-1. 求人票や説明会等情報発信を行う。 3-2. 卒業生のアンケートを活用し、面談、卒業生激励会、企業説明会等を実施する。
2. 自己点検・評価（取り組み状況/目標の達成度）	
<ul style="list-style-type: none"> 1. 各部署と連携を図りながら、特に下北キャンパスと学生の履修登録状況など履修や授業に関わる情報共有に努め、授業から試験期間までの学事暦を無事に遂行することが出来た。 2. 「障がい学生支援実務者育成研修会（基礎プログラム）」に参加し、基本的な知識を習得することができた。 3-1. 求人情報配信を学内掲示板の他に後期から Liny も活用し、より早く学生に情報配信出来るよう努めた。 3-1. 昼休みなどを利用した学生との進路相談を実施。前期に比べて、後期に入ると積極的に進路相談を活用する学生も増え、就職率向上につながった。 3-2. 青森中央短期大学と連携し、保育向けに関東・県内施設説明会を実施したが、介護やビジネスについては、案内が不足し実施することが出来なかった。 	
3. 次年度の取り組み予定	
<ul style="list-style-type: none"> 1. 履修登録に伴う事務処理作業を段取り良く迅速に行い、学生の履修登録漏れがないように学生の履修登録状況の確認作業を必ず行う。また、各部署に履修登録状況などの情報を提供し、履修指導に役立てる。 2. 引き続き、知識（様々な対応事例）の収集に努め、申し出が出た際には多方面と対応を検討し、支援していく。 3-1. 学生との進路相談業務を継続し、チューターとの情報共有に努め、学生の就職活動を支援する。 3-2. 多様な外部機関と連携し、説明会を実施することにより内定を獲得できるよう支援する。 3-3. 県内新卒者激励会、関東激励会の実施。 	